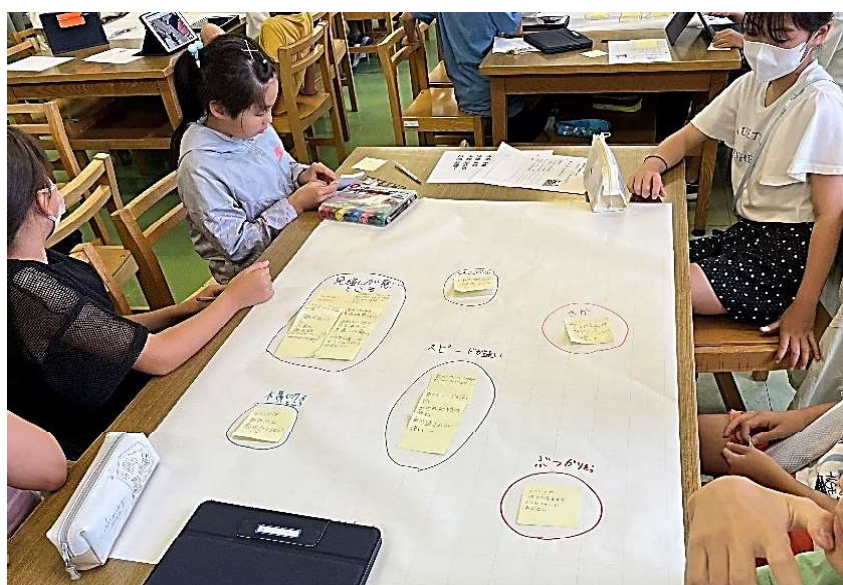


Ⅲ 「交通安全の充実」に向けた取組

実践協力校：石巻市立中里小学校



「交通安全の充実」に向けた取組

石巻市立中里小学校

1 ねらい

具体的な実践指導を通して、交通安全についての知識を理解させ、常に安全に行動できる態度や習慣を養う。

2 テーマ

自分の命は自分で守る意識を高め、危険を予測し、回避する力を身に付ける。

3 指導時数

- (1) 春の交通安全教室・・・・・・・・・・学校行事 1
- (2) 秋の交通安全教室・・・・・・・・・・学校行事 1
- (3) 地域の交通安全について考える・・・総合的な学習の時間 10（5年生）
- (4) 学習発表会・・・・・・・・・・学校行事 2
- (5) 街頭指導・安全下校・・・・・・・・・・課外活動

4 指導の流れ

(1) 春の交通安全教室

低学年の児童は、安全な歩行の仕方について中里地区を歩きながら学習した。石巻市の交通指導隊の協力を頂戴し、複数体制で指導に当たった。中、高学年の児童は、交通指導隊の方に自転車を持参していただき、体育館で交通ルールや自転車の整備する部分などについて指導していただいた。

(2) 秋の交通安全教室

石巻自動車学校に協力していただき、体験的な活動では、低学年はクラクションを鳴らしたり、中高学年は車の助手席等に乗し、飛び出しや後退時に歩行者が見えにくいことを体験したりした。演示の際には、急発進・急ブレーキ、巻き込み事故、速度の違いについてクイズを交えながら体験した。



石巻自動車学校による演示

(3) 地域の交通安全について考える

5年生の総合的な学習の時間において、地域の交通安全について考え、学んだことを学習発表会で発表した。児童は東北工業大学の小川和久先生の講話から交通安全上の危険を探る5つの視点を学んだ。また、石巻警察署の交通安全課から中里小学区の過去5年間の小学生以下の児童が受けた人身事故のデータをい



石巻警察署交通安全課からいただいた資料

ただき提示することで、身近な場所で事故が起こっていることに気付かせた。その後、地区ごとにグループを編成し、タブレットアプリのストリートビューやフィールドワークで地区の危険箇所の調査を行った。学習発表会に向けては、誰に向けて伝えたいのか相手意識をもたせることで、寸劇やクイズを取り入れるなど「誰もが分かるようにわかりやすく」ということを意識させながら発表内容を考えさせた。また、学習発表会で発表することで、全校児童及び保護者、地域の方々にも交通安全について考えるきっかけをもたせることができた。



学習発表会での発表の様子

(4) 街頭指導・安全下校

安全下校とは学校区で行っている集団下校・不審者パトロールのことで、ほかの学校と同じように、区長や民生委員、交通安全ボランティアの方、地域の企業の方などと一緒に下校をしている。

また、本校は学区内を石巻バイパスが横断し、さらに学校周辺は住宅地で細い路地がたくさんあるため、自動車等の通行量が多い。街頭指導については、春と秋の交通安全週間と毎月1回、3か所に学校職員が立って指導している。そのほか交通安全指導隊の方や地域の交通安全ボランティアの方々も立って指導している。

5 成果

- (1) 資料を活用したり、学校近くの事故についてより具体的に調べたりすることで、通学路で事故が起こっていることを示すことができ、身近な問題と感じて主体的に学ぶ姿が見られた。
- (2) 学習発表会という発表の場を設定したことで相手意識をもち、様々な方法を取りながら工夫して内容を考えることができた。
- (3) ストリートビューの有効性に気付くことができた。また、フィールドワークを行うことで交通安全上の危険性についてより理解が深まることがわかった。

6 課題

- (1) 児童によって安全への意識に差があるため、朝の活動などで身近な問題として交通安全について学習する時間を設けたり、互いに学びを共有する場を設けたりすることも必要である。
- (2) 自転車の正しい乗り方にも個人差が大きい。児童の実態や家庭環境を考えると、自転車を持ってきて学校で乗るということが難しいため、保護者とも正しい自転車の乗り方を共通理解を図り、家庭でも話し合ってもらったことに加え、なるべく自転車の実物を示しながら視覚的にも訴えて指導していく必要がある。

